



# アーチェリー探訪記 No.12

明石一希 (Writer)

〈静岡県〉

## 浜松市 アーチェリー協会

5月11日(日)、浜松市の江之島アーチェリー場で浜松市アーチェリー協会が月例会を開催。好天には恵まれたが、強風のなかでの開催となった。月例会では、最後に恒例の「ゴールドヒット」ゲームが行われる。40秒1射、進行役が示す条件をクリアした人が勝ち残る。今回は6回のゲームの末、岡村浩志さんが優勝した。

### 日本のアーチェリーを大きくした街、浜松

浜松市アーチェリー協会は1957年創立の歴史ある協会のひとつ。初代会長は、日本楽器製造株式会社(現ヤマハ株式会社)の社長であり、日本アーチェリー協会(現全日本アーチェリー連盟)会長として日本のアーチェリー発展に尽力した川上源一氏だ。かつて浜松市の中沢町にあったヤマハアーチェリーレンジでは、国内外で活躍するアーチャーと地元の高校生が共に練習していた。「常勝静岡」と名を馳せたのは、浜松のこの環境があったからだ。

「大人と高校生が、「仲間」として一緒にやっていた」と、元ソウル・オリンピック代表で浜松市アーチェリー協会理事長の古橋照司さんが話すと、「高校生と勝負したりね」と協会理事の袴田賢一郎さんが当時を懐かしむ。

### 中沢から江之島、 受け継がれる賑わい

2002年、ヤマハがアーチェリー事業から撤退。後にヤマハの射場も閉鎖となったが、2021年、浜松市がいまの江之島アーチェリー場を整備した。現会長の柳川樹一郎さんは「浜松は日本のアーチェリーの始まり。その火を絶やさないようにしたい」と話す。

協会では、年4回初心者教室を行い、市内の高校アーチェリー部にも射場利用や月例会の案内をしてアーチェリー場



【左から】浜松のアーチェリーの歴史や協会について話してくれた古橋照司さん、鈴木邦之さん、袴田賢一郎さん。



江之島アーチェリー場は朝9時から夜9時まで利用でき、70mまで行射可能。写真は30mラインからの様子。



月例会に集まったメンバー。競技には16名が参加した。



「風が止むのを待つか」「風に揺れながら射つか」、風との向き合い方が問われた月例会だった。



月例会恒例の「ゴールドヒット」決勝。岡村浩志さん(手前)が仲山和宏さんとの一騎打ちを制した。



江之島アーチェリー場の整備について話してくれた柳川樹一郎さん。

の活性化に取り組んできた。その結果、中学生の入会もあり、現在会員数は約70名と過去最大となっており、市内の高校アーチェリー部を含むと100名以上になる。

「楽しくみんなでやる。その上で、上手くなりたい人には理に適った指導をして、活躍してほしい」と古橋さん。事務局の鈴木邦之さんは「高校の部活動は指導者が足りないなどの課題があるので、協会からいろいろと案内しています」と話し、楽しむことと地域レベルの向上を目指している。

創立から68年、中沢の射場で生まれた賑わいが、ここ江之島でも生まれている。

